

体罰を、しない！ させない！ 許さない！

悪いとわかっているはずなのに、いまだに不適切な指導が行われてはいませんか。
1学期も終わりに近づいたこの時期に、校内で再確認しましょう。

自分自身を振り返ってみましょう。あてはまる項目はありませんか？

- 部活で試合に負けた原因を考えさせたり、諦めない心を養ったりすることを名目に、過度に肉体的・精神的負荷を伴う練習を強いることがある。
- 児童や生徒の動きが、自分の考えているものと相違した場合に、指導が浸透しない「焦り」から、自分の感情を抑えきれないことがある。
- 生徒指導上の課題があれば、人間形成のために叩くなどの強い指導も必要だと思う。
- 蹴ったり叩いたりしても、怪我を負わせなければ体罰にはならないと思う。
- 特に部活動では、生徒は指導者に反論すべきでないと思う。
- 人間関係ができており児童生徒を納得させられれば、叩いてもよいと思う。

参照：東京都教育委員会 体罰調査委員会報告書(平成25年5月23日)

一つでも当てはまれば、

- ・自分自身の体罰に関する認識を再確認し、指導の在り方を見直しましょう。
- ・どのような行為が体罰に当たるか、今一度正しく理解しましょう。
- ・「運動部活動の指導ガイドライン」(平成25年5月27日 文部科学省)を再度確認しましょう。

